遠野物語

序

雲屋

[illegible]

[illegible]人[illegible]一[illegible]法を[illegible]國乃

[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時は此まれ始めの花の所にありやと彼の
様を路て味ある集の友をも集め菜の小冊お
もうくさ弄これらの名をも記しておさ於て
東風の吹よりて梅もむ芳り芳しき時の
こちハさ仏をなむて其時集とこれつくまれ
もれ花ハ同しあるハまた枕閑とする此事之人 雨云

嘉永七甲寅一陽来復之日

鶯白く鳴けり花乃ふもとの宿　梟　左
この声聴くに先ん立る水音　学　一
柴乃様むり四五枝織けらす　右
加減乃ちきれなし酒もの　一
佃も取くなりて意きもの有　右
二　菜乃ありえる麦ま於く露　一

多くふ出物を拵そめ袴の肩　　左

下設ゆふゆゆふゆゆゆめ縁組　　一

酒ぬの尼をおもるさ嘶　　左

節白らしらそそくそぬ塗所　　一

きゑ中ふ面の傳出ひ田植唄　　左

三十石乃船乃とゝひ素　　一

入るうへゝゝゝゝゝかやく秋の月　　左

城をとうまんそ鳥おそ有　　一

あくつよ船そ手芋の苦さ　　左

出せんそ多ぬ金の少見　　一

きて雲城夢うくる素樹　　左

仕すはんふうつた門畑　　一

万巣そ多ま拵くこの罪ゆ　　、

ちゃ親ほをきゆるさ荷　　左

糸まま雲ふく落ぬを又彩ゑ　　一

ちゃ刀そものもあるゆふひ　　左

あるくふたりや十月もすぎて　一
細代の帽をあみ　たり
ほしふたりの影のあまれて　一
ぬつゝ新しる石のちいさき　たり
鶴の羽のおもい鉢とみる折ふし　一
うゝ月　住居のちゝ　たり
泥をゝ水ふ言ふ　海の月　一
尾鉢ふ　鶴よりもたゝ　たり

外あるの路をふる老　京　一
鉢ふる人ふ鶴のをゝぬ　たり
等たゝ月のある　京のゝ　一
ほゝ　あゝ月をる　たり
鋪をふ眼のをゝ　ぬ　一
鶴ゝ　ぬ　鶴月　木つゝ　たり

大宮人は立ちまさるふる雨かな　并資

夕和をかくす紀の国　等一

入日を出う移るわれ帰るて　資

志ひ〳〵く鶯の杖をたのむ　一

さ波乃汀ふ月の潮さす　資

音ふ聞てる鐘の声誠引　一

あまそのの恒ある鶴ら鳴て　資

人り咲をぬ菜もとめる　一

ちる花数桜あるるとちて　資

春の来る小神引る　一

猶梅の香まる紀西堂の　資

傘乃雪り志乃なる笠　一

寺堂の月代遅ゝ咲ゝ里　資

蕗ゝ生ちん匂い出る畑　一

折ゝ遊川流もまるゝ　資

諸食西の京祭ゝ　一

さく鄙ふ自分料理を拵まて　資
見乃雲乃先　一
四辺場の人もタ多きハッ乃　、
毋数あそぬ結本　多る　資
呑をきて後きて雲て雲を寄　一
車東こも　軒下乃　濃　資
用あるをふきもを拵まもの多
あ〜鹿城　拵ふ祝写の拵　資

鼻多の部乃砂をきを　一
大拵葉の部　合を先策　資
祝ふをあ〜の人のもあて　一
京をこ乃　葉乃　これ　中　資
月又乃〜雲〜　雲〜つき　一
拵鹿　〜荷城　おろ作毛　資
葉内多ふを紙ぬ雲ふ多あるき　一
遠乃内城乃そくを話を紙　資

[illegible] 一

[illegible] 苔代　資

[illegible] 一

[illegible] 資

苔代や籌忘れぬ人もあり　梅園

さゝ小葉そよぐ下もえ　等一

[illegible] 園

そろ〳〵坂ふゝる山　等　一

[illegible] 園

[illegible] 一

[illegible] 園

[illegible] 一

[illegible] 園

[illegible] 一

[illegible] 園

[illegible] 一

[illegible]袖乃皺乃[illegible]

虚

数ある竿のとれもふさのる

一

お指乃一[illegible]竿迄[illegible]

虚

今ふまれぬ乃忘迄ぬ山乃[illegible]

一

足積り乃旅の[illegible]ぬ[illegible]乃[illegible]合点

虚

[illegible]ふ[illegible]ぬ世突

一

出[illegible]迄仕[illegible]月も[illegible]乃上

虚

[illegible]以堤乃[illegible]

一

[illegible]入ホあふ[illegible]

、

[illegible]笹[illegible]

園

[illegible]

一

[illegible]魚へ[illegible]る近迄を四ふ

園

尾うら乃[illegible]ふ[illegible]

一

[illegible]も[illegible]

園

起[illegible]

一

[illegible]

園

[illegible]　一
[illegible]　同
[illegible]　一
[illegible]　同
[illegible]　一
[illegible]　同
[illegible]　一
[illegible]　同

[illegible]　一
[illegible]　同
[illegible]　東都　丁　岩
人丸　南枝
人丸　白起
黄葉　[illegible]　[illegible]

[illegible]ある人もあり郭の中、云山
をしの岩を海口にふる入江のふ、見分
海紫の岩龍や[illegible]、写載
[illegible]入るやまふ　吹る　大坂　菜摘
摘まふや　新の[illegible]の[illegible]海、云外
海をきやうやうみの松の間、丹弁女
[illegible]の拾ひ和や赤梅、加物
麦[illegible]の料理や物の[illegible]、[illegible]

[illegible]あるを[illegible]の[illegible]　写名
布の[illegible]　恵の云　[illegible]節
吹やんてあるの[illegible]　物　文翠
人の眠るふ[illegible]　赤梅　清節
[illegible]や[illegible]ぬ松の[illegible]　拾拾
川岸も[illegible]　松朗
[illegible]　柳の[illegible]　云成
うゝ白の[illegible]　物の影の[illegible]　物通

白きのまれ写る白一を 播 紀行 秀抱

掬て重きを捨て雨もわろきを、 雨 那

芽の芽やを捨てけりの白し 淀川 香

ひかんしき船を船の出、 播の出、 惟一

物思や無人あけて新の井、 鼻洗

石を写るをきをんて芦の 河内 枕水

乱くふる雪や山の上紀 大和 秋

おしの写るを水をけて雪ふる 日向 双鳥

えりや編をおもしの乃新の笠 而 石

雪や雪の行吟を新乃先 元分 杜水

初芝や一ひを人をおくを捨ても 上サ 恵九

傳乃行るをとふを持をんぬ乃来ぶ ヒタチ 一 枕

雪や山根乃芝乃 を ふる 羽、 一雪

吟ふ鉄を雪をんぬを雪や初ふ寸、 清山

七夕や天人て 初ふる 橋乃人、 井人

牧牧のともを来る木のかんぶ、 二三

松乃琴そふ手味ゝ　乎書　下も　仲敬

ちゝ風や一ゝ〳〵よ海のきゝも、　寄芳

行原や夕風あゝまく春の上　かゝ　鳴ま

鳴ゝつ春のもと〳〵成ゝや市の雑、　松毒

乎ゝ乎ゝもゝ比ふゝもむ白や初　蔵　ゝん　寂松

魚乎や乎れゝゝ寂も池の中、　物り

ちゝゝゝぬ心あゝを也や猫の恋　サヌキ　梯永

双手ゝれゝ夕ゝゝ松ちゝゝゝ　波同

和乃乎ゝゝの海芳や乃乃乎　由誓

白料ゝ和ゝゝ乎ゝ門ゝゝ　味令

夢ふ数ゝ拙ゝ和ふ稼ゝ南　之路

芳ゝゝん是ゝ乎芳ゝ裕ゝふ　松永

ゝ魚ゝゝゝゝ和ゝゝ新の岩　井賀

あゝゝふふ山　時ゝゝ川ゝ　ちゝ義

恒のあゝ新ゝゝゝゝゝゝゝ　抱像

[illegible] 初山
夕風を待ちてそよぐ [illegible] 小深
さざなみや [illegible] 梅の末 梅月
葉桜のゆき [illegible] 雪
[illegible] 鶯
一句の [illegible] くも傘の [illegible] 乗之
[illegible] 西行
神の [illegible] 遊 [illegible] 逸淵

若葉 [illegible] 小袖の [illegible] 下サ 汎翠
葉 [illegible] 武大王 牧笛
[illegible] 大和 花嶋
梅の [illegible] 入梅の [illegible] 月耕
[illegible] 一知
雪の [illegible] 夏木立、 素堂
[illegible] 下毛 甚雪
夏山や [illegible] 紙石 乙良

麦乃こゝ葛山吹や知るもしらぬ（オリ）あるめ

さゝ〻て我庵ふかき雨つたかゝる　かゝ（ヒ）江

雪やゝふかき雪をこえて訪　こ（イナハ）ゝ井

橋明日もゆくべし、用うふ、其負

を負て代こゝろ紀あやめぶ、左丈

折こゝろ逆るまこゝ人帝ふ、一艇

家こゝ家こゝ家こゝ家ふ　知（ヒクチ）麦

川へ出て同一流の佳こゝふ　一（ろゝ）池

柳ゝやあらぬ知るもの家　芹舎

風の出て橋こゝ栗乃こゝ　左（タヒハ）義

柱こゝ家の家こゝ湯ふ　大坂　鶴仁

家こゝ陰孤乃家やこゝ歩、こゝ成

魚釣のかよ人あ一こゝ乃岬、　蕉屯

[illegible]千綱千家の軒端に　香山

秋の牧草の[illegible]ふ深月　雪一

[illegible]酒跡を[illegible]ふ[illegible]　山

郡を[illegible]ふ[illegible]と[illegible]　一

沈[illegible]土産[illegible]村を[illegible]　山

枯[illegible]を踏ふ[illegible]　一

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]　山

[illegible]の[illegible]　一

[illegible]の阪[illegible]　山

[illegible]の[illegible]　一

引[illegible]四[illegible]牛[illegible]　山

[illegible]の[illegible]　一

[illegible]月の[illegible]　山

[illegible]業[illegible]　一

[illegible]種[illegible]業の[illegible]　山

[illegible]　一

花乃白一志賀の里吹こえて　山
宮は過ぬふし見舟ふ　一
きさらぎの中のはつき瀬　庇　、
夕立く千鳥鳴く松の本　山
御若弟雅なる稚児の跡ふて　一
温泉もうちとけ一まち入る　山
折ふしは楽もちよく吹くなる　一
貴ふく身をよそにて居る　山

行らしの若ふきそゝをめてあかよ　一
恋す志らしくをもかきぬ　山
声て寛ふものをそれしからへて　一
人目の立つ理の夕し残　山
大明の旅ぬ谷かむ名ある餅　一
翠黄や月しろの来つて芸路　山
冬ちらく荒る木の葉ちらしそめて　一
兎角無称を自慢さらす　山

仕まつりくらべきせる角　一
寄合ちらす楽屋の中　山
世ちらすもゝの間をあし　一
帝の新おく蓋乃上　山

おさうとの中ふるさと小松　涼松
年のくらう暮きれ　雪　一

ゆふ入の林をたる　おとつきこう　松
枝はおうゝふ住ふ　詩次　一
家をたゝふて　月乃　松
ちとをおれ　ちまゝ　一
お撰場の智快さ　鶴うひ　松
桑のうあ　おうしう　一
又三る　起う　神　松
市を世業の為　涼歩　一

物の師を仕りまつりて歌ある

杖

来研あるふてきまる 撥

一

世のかの乃僧も又てぬ龍乃月

杖

人嘆き人の仕るふる らん

一

もろい詩の点文俊りを秋雨る

杖

侍者中一以へぬ俗 銭

一

教の点ふく学びまきあきて

杖

の多り 源く 霞む 山

一

所乃所をふきにたりきあり

一

多すれ 立 乗る 猿乃ときの

杖

きたりこの家てをちを激あし

一

言葉とる 鶴 よ 鶴のあるむ

杖

田 金てを男を持くきる人

一

豆 米 そろえる 涙の吹ぬき

杖

大うきたてのきたる 貸生家

一

め移する 体く 迎 ふうこうき

杖

梅と雪の年ゆき一つも雪のあく　一

[illegible]て出そめ　重る浪札　杉

[illegible]や[illegible]梅の[illegible]の[illegible]月明り　一

[illegible]の[illegible]て[illegible]る[illegible]の[illegible]　杉

[illegible]ま[illegible]ら[illegible]ら[illegible]に[illegible]て　一

[illegible]ふ[illegible]を[illegible]の[illegible]　杉

年[illegible]一[illegible]つ[illegible]る[illegible]　一

人[illegible]ら[illegible]ら　池の[illegible]附　杉

[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ふ[illegible]を[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら　一

[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]　杉

[illegible]の[illegible]て[illegible]ら[illegible]ひぬ[illegible]の[illegible]　[illegible]柳

[illegible]く[illegible]の[illegible]る[illegible]　[illegible]　一

[illegible]の出ぬ[illegible]酒の[illegible]ら[illegible]　美濃

[illegible]の[illegible]ら[illegible]ら[illegible]の[illegible]ら[illegible]　[illegible]

[illegible]月の報　一
手貢のまゝ[illegible]　秋元
[illegible]小籠[illegible]番の[illegible]　虎
[illegible]中[illegible]　崎
[illegible]今年　松
内へ[illegible]中[illegible]借[illegible]　一
[illegible]の家主[illegible]　崎
[illegible]入物[illegible]月　虎

[illegible]仕[illegible]　一
[illegible]田級おる　松
人毎[illegible]　虎
[illegible]御[illegible]降雪　崎
[illegible]乃[illegible]　松
杖[illegible]孫生[illegible]　一
[illegible]四金[illegible]　崎
[illegible]牛おひ　虎

[illegible]年の夏女中雪　一

[illegible]の舞姫もと　柳

[illegible]の数と[illegible]れて　曉

返す[illegible]　晴

[illegible]ふ人[illegible]　柳

[illegible]　一

足袋を[illegible]取[illegible]　晴

迷ひ侵ひ乃小[illegible]ぬ　曉

[illegible]入て[illegible]月[illegible]　一

[illegible]加茂川の秋　柳

[illegible]乃[illegible]　曉

[illegible]　晴

[illegible]　柳

[illegible]　一

[illegible]　晴

[illegible]　曉

初鶯よとくの海の雪の末　等一

寄新〳〵　鴻

立あふれの水の雪を東風吹て　了然

まく行あひの人もかをる　一

年の色奪ふ春の雨　石

見ぬ人にわとう鶯の刈株　然

百性の名ゝ（中略）秋寄て　一

動そ〳〵あるを年こそ豊年　石

笠ぬ吹風ふる稲も雲迄　然

石ゝ志ぬ雪の新の宮　一

門先ゝ出を吉数寄の俳あるを　石

ゝ秋〳〵の数のふゝる老人　然

あゝゝある法師のまゝ俳　一

嘆笠の袖を志ゝる出ゝ　石

あみ店ばかりにあるべきこと　然

ちゃうこうきえうこうこと　一

和尚のあるをもくばんもちること　石

内裏の御ゆうの時　然

小杉さうの者ゆけんやはあるし　小忠

ゆかりふ月の御ようこうこと　一

茶屋店おはらのうちちゝ侍る郎　忠

為々張る人のうへをきくみる　一

何も角を結ぶものちふ川つゝ　忠

刈対すきる麦をくの色　一

禅ちを以ゆも和尚の他行ちち　忠

為こ火の御をばく悦き法出　一

鳴きふ雲と為ものを法殺て　忠

砂りをきるの時こうる　一

[illegible]川と書るものの[illegible]

[illegible]ゆる うの花 初秋の照 一

[illegible]やうに[illegible]かく月明り 点

二世を書れ[illegible]きこえる 一

従性を[illegible]風一[illegible]うけ 点

[illegible]中の[illegible]る[illegible] 一

[illegible]の数の立あ歩 点

[illegible]あ[illegible]ち 一

[illegible]おもい[illegible] 点

[illegible]ふ[illegible]ふ 点

[illegible]の[illegible] 一

[illegible]垣 点

[illegible]ぬ 一

[illegible]ぬ 点

[illegible]人[illegible] 一

[illegible]立 点

[illegible]出を[illegible]出[illegible]の白日士　一

[illegible]　沖　黄　[illegible]　一

名月のうら[illegible]　一

[illegible]の秋を[illegible]　一

[illegible]　一

[illegible]　一

[illegible]　一

[illegible]　一

山里の中[illegible]　一

[illegible]　一

[illegible]　月　人

[illegible]　一

[illegible]月　一

[illegible]　人

[illegible]　一

[illegible]　人
[illegible]　一
[illegible]　人
[illegible]　一
[illegible]　人
[illegible]　一
[illegible]　人
[illegible]　一

[illegible]　人
[illegible]　一
[illegible]　人
[illegible]　一
[illegible]　人
[illegible]　一
[illegible]　人
[illegible]　一

門にたてたる榊の
剪さる 枝かるる 大年の夜 人
鬱りをのがきて住ふ 垂心水 一
面目をあらに 縁の変替 人
主命を行その時を暮るけ 一
業是きるとて 切戸 明おく 人
家無り其酒の肴 秋鯨 一
世来ふつむ 物法月 人

夢かの系元 手きる 手細工 一
紙ちちしく 唄うふなり 人
水しるるる 月ある 歩の苗 一
鋤あみの沢を 人
鶯うたに 月 高き 鶯所 一
刷毛目 茶碗の 紙 人
見るれ 刷毛 鶯 部人 一
吸ふ 角みの 見ふ 結 人

水戸なる竹之内氏を菱乃屋　東都　得益
うゑ小路なる千種屋社乃下　毛村
きりゝ屋なる河内屋　八月を入る　東川
細引屋なる小すの屋　三乃月　琴毋
十六部や人乃沖ゑん　七月を入る　宗玉
吹屋なる新乃屋うるゝ　羽雪
書ちゝ屋なる太三乃屋　茅古

悔乃うゝ乃をて　一乗乃屋　叶子
紙立や地を吹ゝ　松乃家　ち箭
ゑゝ乃屋　桔梗屋　五休
下枝を家を　ふや乃　杉翁
乃屋なる井屋乃屋　杉翁
立紙や先郎なる　人乃家　宗巴
屋なる井屋　京郎
乗乃屋　武大三郎　苑外

初雁や雨の明ゆく[illegible]　上野　由儀

[illegible]ふもとの[illegible]　武后　好都

俳句ふるや眼の外や秋の雨　紫中　無号

[illegible]秀の[illegible]決あり　やうふ袖　二河　蓬宇

[illegible]あうしふるえのらるる鶴のふ、　鬼生

八歌やめるるるる寄るるる、　秀丹

第目のひるるるき彩ひるふ、　牧丈

夕やけるるるるふや秋の雲、　明角

[illegible]　蛾　[illegible]

蛾垣をるるるる明や星ふる、　秋美

蛾番や、又るる出る揖の音、　芳山

七夕や指ひるるるるる[illegible]、　三岳

月淋や[illegible]ふるるるるる白　兄甘　鼎石

[illegible]るるるるるる角力取　三十又　青坡

[illegible]るる明るふ　尾張　一清

[illegible]の秋や[illegible]あるる、　李曙

[illegible]秋の[illegible]　[illegible]　[illegible]

一番 今宵て関まき 陽の糸 いり雲仙
よき秋の月 行ちまて て来られ 沼田 う 雲
一純 なぬ ちん て 来 う 恵 月 仙内 左栗
和 な 父 ふ 豆 う あ き 月 ち ふ 、 鳳尾
七夕 や 夏 ち ち 彩 の あ や ま 紀 てん 青池
一 ッ 赤 ワ ち ま ち ち め と ち ぶ 、 一 帆
月 ま て て 人 ち 浄 う 典 ま ワ ち 彩 、 発 術
おき あ ま ち ま ま ち 彩 ま ち 彩 の 上 イナハ 之 美

六月 ち ち 花 の 第 う 秋 の 雪 日向 弛 岳

古 穂 や し ち 花 ち や き 拾 て 保 乃 月 影 先
名 月 や 鉄 ち う の 姫 ま 田 の 物 志 原
め 月 美 ふ 雪 術 う 多 様 ふ ふ 角
移 う あ ふ 神 の ふ し ま や 保 の 鉢 香 山
記 ち 月 竹 て 美 り 彩 て 菓 う ふ 物 園
置 泰 乃 和 ち て 天 美 ち 三 月 乃 月 小 恵

為くりもるうたに文て月の宴　芝孤
面あふるふりや月の秀りう　秋唯
名月や見ろ乃と　芝ろう
業しくりけさ辺や家乃門　義崎
ちくさやちく枝の明ぬ宴の色　福石
ちとまれ　きさ　清て所の月　多中
寿こ号の行ろ　ちぬ枝きく　芝磐
桔梗　きるもたこやや青の白　鶯湖

あるやらふ入りけさ　一号の秋　鶯史
一至ろとあるあ　ちを嗜き彩象分　其月
枝ち　しとふたん　や老　塘　湖多
寿ちく　寿のふ　ふれて移の色　百雪
山近　きこゆる湖も秋乃当　佳多
彩細き　彩乃　物やほ乃月　湖月
素塘ち　枝うう　ちを芭乃夢　洪升
ちく寿ぬ　て竹ち月の素　栖秀女

為さん入り井やつくり乃　万頃
扨のゆき里為ゝ　松宝

志そし留の行てまるや井の水　井資
枯伏く路をかれやまき原　この丸
き等や原垣こふえゆる畑　井竜
紅年の勢ひ杉や海老の繁　涼松
牡斗　武世のうみやをり月　聖松

初雁や月の田よりむる　雁　月人
月出や旭りさ松の一本　乃然
栄ゝならふや春乃を牡丹　太朗
志ゝ乃ゝや折は馬も蓑のふ　花六
き蓑や菊ゝおゝ葉の匂ひ　梅月
ゝ等やゝゝ紅人ゝ紅ゝ紫乃上　梅矣
信志ゝ垂ゝて紅や松ゝ川憂　玉幾
ゝ乃背を為ゝ為ゝ枯尾芒　秋亭

太刀ゆきくれて綱代の　天香
月ふかくなら山ちかく　小知
江の鶴や　延乃ゆきの深草ふ　文越
篝屋乃志川枝うつゝ小野の雪　安智
鶴ふくやさと岸ちかく　文昇
梅やまくよりの色乃数　入角
志ゝるや折しも寒乃志　佳章
新ゝれうを戸口や初しぐれ　杉花

代ゝゆく　羽衣乃うゝ雪の鶴　笑杉
雪ゝ多太乃巣も侍る行末ふ　兵庫　う大
う抜ゝゝ巣のもゝやゝ雪はら　碓花
咲ゝぬ雪やしゝゝ抜乃行ゝ侍　イナハ　壁風
雪月やゝゝふ侍り所　イヨ　芳仙
ゝ抜ゝゝゝゝれゝの巣の仰　アハ　巣雷
志ゝゝしゝゝ記ゝ乃ゝ杖の実結　ヒセン　鳴く
柳ゝく志ゝ枯ゝ行ゝ侍り　モヲ　蓮乃

花ちや清水乃石にかゝる雲　舎子

追加

はらへふ月のかくし雲の松　碌拙更　波右

鴨ふくや夕和らぐ峯乃月の暈　亀松

吹迄て石乃笹踏あらしかな　花月

多龍のさして白ふや花乃梅　悰雲

鶯乃住松岱山家乃垣ちかし　枕門

茶を沸てありまてすゝきかな　江ト　素翁

一吹り瀬田を走る[illegible]鳥　京　蓑雪

咲かゝる夕映ましゝ冬乃梅、　垂水

寺葉乃一龍枯ぬ霜乃あゆん　十六　梅笑

行脚ゑきもゆる竹の葉見かな　梅雪

ふえして行や枯野のあそこの火、　花雪

さまざまのならりけり　箔歩　箕一

積子乃傘を木乃葉吹込　了然

新田なる一村人の集りに

志ろき眉をうゑるよろこひ　一

月影を出て涼みく　猿の鳴をき

恍惚として　乗り船　然

ろ　略

一集を金ゝ

探る物さらゝぬ　梅ほとを条　巻一